

《防災 VG 炊き出し訓練及び懇親会実施》

第2グループ 武居 晋亮

7月16日(月)連休中、猛暑の中、ボランティアメンバー28名の参加(当日欠席3名、予約なし参加1名)を得て、2回目の訓練・懇親会を開催しました。

今回の炊き出し訓練は食料・物資チーム皆さんの指導のもと、全員参加で各自仕事の分担をし、手際よくまた和気あいあいと進み、有意義な一日でした。

終了後、皆様から頂いたアンケートに



- ① いざという時、お会いしたことのある方々と力を合わせ取り組むことは大変良い。
  - ② 普段からコミュニケーションでお互い仲良くなっておくことは、なによりの防災対策と思う。
  - ③ 防災発生時の最大の武器は住民の助け合いです。訓練・懇親会はその輪作りのキッカケになる。
- 等のまさしく訓練・懇親会の核心を突いたご意見をいただき、担当者としては、これ以上の励ましの言葉はなく、感謝いたしますと共に、関係各位のご協力にお礼申し上げます。

《炊き出し訓練・懇親会体験談》

高橋 清 61-5

「私は、今迄地区外の活動が主体でしたが、最近の西日本地方の災害は他人ごととは思えず、町内会活動への関心が高くなって参りました。其の折「炊き出し訓練と懇親会のご案内」のタイトルに惹かれての今回の参加となりました。参加者28名を四班に分けて、各班には熱湯入りの釜とガスコンロがセットされ、その釜の中に各人持参の米入り耐熱袋を入れる事 15分で炊き上がり、その後 10分間蒸らして完成です。

その時レトルトのカレー袋も一緒に入れたので、30分以内で昼食が出来上がりました。電気釜に比し半分の時間で調理が出来、その食感も良好でした。独り身の私に取り得る所大で取り、今後の食生活に取り入れようと思いました。それから、災害時の簡単食事作り方のレシピを頂き、酒の肴に打って付けのおかずが簡単に作れそうで、参考にして食卓を賑わせようと考えております。今回、食糧・物資チームの方々にはご苦勞をかけましたが、緊急時に本当に役立つ良い機会であったと思います。

防災だより

6月27日「見まわり隊(2班)との」非常食体験コラボ!

食事調料班 チーフ 乙川さよ子

〈みまわり隊〉11名、食事場設営班・食事調理班 14名の計25名  
レシピは①持ち寄ったお米、②定番になっているカレー。耐熱用のポリ袋に入れ、水加減等調理指導班の下、スムーズに進行しました。

参加された方の感想・意見は

- ①みんなで体験が出来て良かった。
- ②お米を洗ってなかったが、気にならなかった。
- ③水の節約になることが分かった。
- ④食事調理搬のアドバイスも回を重ねること、水加減。味とも安定してきた。

皆様の協力でとてもいい体験できました。有難うございました。



見まわり隊 2班 若杉春子

6月27日、非常食体験に参加しました。災害時は材料が早く煮えるように野菜はすべて小さく薄く切り、肉の代わりにオイル漬けのツナ缶、これらをポリ袋に水とカレールーを加えます、よくもんで、カレールーを全体になじませます。お米は洗わずにポリ袋に入れ適量の水を入れます。カレーもお米も袋の空気を抜き上部を固く締め沸騰したたっぶりの湯の中に一緒に入れて茹でます。30分ぐらい。カレーも、ごはんも思いがけなく美味しく出来上がりました。初めて参加でしたが、参考になったことがいくつかあります。使ったポリ袋が冷蔵・冷凍・湯せん可の特殊なものだったこと、出来上がったカレーを上部を切ってそのまま皿の上に載せるだけ、食器洗いの水も節約できるし、とにかく非常時には水をいかに大切に使うかを真剣に考えねばと改めて思いました。



30年度「要援護者宅訪問」報告

民生委員+グループリーダー

昨年11月に、要援護者のアンケートを実施しました。

登録いただいた新しい要援護者名簿に基づき、5月の中、栗原自治会長の挨拶文を携えて家庭訪問を行いました。その状況等を報告いたします。データーとして訪問した件数、お会い出来た件数、お留守で挨拶状を入れて来た件数は別表の通りです。アンケート以降に登録抹消の理由は①転居 ②施設入居 ③入院 ④お亡くなりになった方 ⑤未提出の方等です。お会いできた方のコメント ①支援の必要を訴え、訪問者に対し感謝の言葉あり ②自治会を退会したが、サポートしてもらえますのか、それは安心です。 ③これからますます支援が必要となりますと訴えられていました。訪問して感じたこと ①民生委員の平素の活動(見守り・訪問など)がありスムーズに進めることができました ②VGメンバーの支援について理解されていないお宅もありました ③年々高齢化は確実に進んでおり、体が思うように動かない、何かするにも時間がかかる、イライラがつのる等の訴えをされる方が多くみられました ④災害時独力で対応することが困難と思われる方が多く VGとしてそのような状況に対応する方策が必要 ⑤高齢化が進む中私たちVGがどこまで立ち入れるか私たちの課題が残った気がします。

訪問者	要援護者登録数	会えた方	お留守
戸次明子(民生委員)	61名	54名	7名
小沢誠一(Gリーダー)	(47世帯)	(41世帯)	(6世帯)
大橋ひろみ(民生委員)	55名	42名	13名
小松勝子(Gリーダー)	(42世帯)	(35世帯)	(7世帯)
大島房子(民生委員)	61名	42名	19名
武居晋亮(Gリーダー)	(50世帯)	(34世帯)	(16世帯)
H30年5月31日現在	177名 139(世帯)	138名 (110世帯)	39名 (29世帯)

《スタンドパイプを使った消火訓練》

防災VG代表 徳岡正彦

7月12日(木)南丸公園で武居釜利谷消防所所長以下・釜利谷消防団の指導のもと、消火栓からSPを使った放水訓練を実施致しました。

参加者は消防所・消防団・各4名、周辺地区36名計44名の方々に参加していただきました。今回女性陣の参加が目立ちました。関係各位のご協力で有意義な訓練が無事終了できました事、厚く御礼申し上げます。



《スタンドパイプを使用した消火訓練の感想》

斎藤 良策 85-6

訓練参加は消火知識&技術向上は勿論、住民の意識改革にとっても貢献するものと改めて痛感させられた次第です。以下は訓練に関する小生の感想です。

- 1.この SP は災害等で火災が、多発し消防がいち早く火災現場に駆けつけてくず、且つ小規模消火活動にのみ有効と考えます。従い火事発生時、一刻も早く SP を現場に持ち持ち込むことが肝要、関ヶ谷全体で1セットしか用意されていないというのは絶対的に数が不足しています。少なくとも、各公園に1セット用意する必要があります。
- 2. SP の保管場所及び持ち出し、方法等住民への周知徹底が必要でです。
- 3.参加者の中には、例えばサンダル履き等、とても消火訓練に適した服装とは言えない方を散見しました。訓練案内書には、スニーカー&軍手等、訓練に最低必要な服装を案内すべきではないでしょうか。



『防災部・防災ボランティアの今後の活動予定』

- 8月21日(火):防災炊き出し訓練を子供会とコラボ
- 9月1日(土):地域防災拠点運営委員会
- 9月9日(日):スタンドパイプによる消火訓練(北の門公園)
- 9月22日(土):自治会防災訓練
- 10月4日(木):防災バス見学会(そなエリア東京)
- 11月15日(木):防災だより22号発行
- 11月24日(土):地域防災拠点訓練リハーサル(本番は12/2)

自助・共助・公助



8月11日納涼大会模擬店照明自動車発電を使用

情・通・電リーダー 荒木 健治

今年度の模擬店照明の電気は自動車で発電したものでした。5丁目の山本覚さんが、3年前に購入した乗用車には家庭用電気コンセントが標準品として装備されていました。(能力1500W)。この車の電気によるものです。

標準としてではなくても、オプションとして取り付けられる車種も多いようです。最近、NHKの昼の番組で「避難所電気も自動車発電…」紹介されました。自動車発電が時流のようです。これから新車を購入される方には、このような車の検討をお勧めします。上記のような車ではなく、普通の車を既に持っている場合はどうするか。インバーター(車のバッテリーの直流を交流(家庭電気)にする)の購入を勧めます。筆者は1300Wのインバーターを用意しています。大きな地震は勿論いつ起こるか分からない停電、その時冷蔵庫が気になるからです。(冷蔵庫だけなら150~200W)軽四輪でも冷蔵庫対応の発電能力があると推測します。ご家庭の車を非常時電源として活用できるようにしておくことを勧めます。納涼大会発電課題発見の中、無事終了しました!

